

急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 文

いろんな差之があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 614

2022年 3月 刊

編集・発行 鈴木厚正

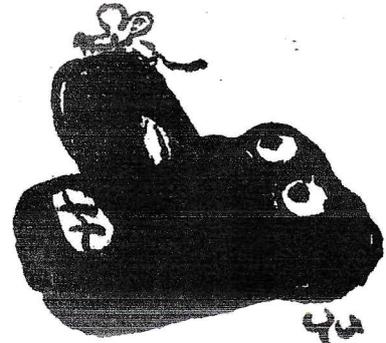
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- あの山の向こうに 2
- 甦った「ゴリラのハンマー」と 4
- 戸狩温泉スキーツアー 7
- 日本政府の累積赤字問題考察 8
- 「筑波根物語」など 11
- 山仕事(2月大平) 15
- お便利から 21
- 会費払込票のこと 25
- け・い・じ・ばん 24

正気の沙汰か ロシア軍 原発を攻撃 占拠。



3月6日現在の
会員数 229名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 併い込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、 →

ライフ・薔
— 竹久夢二の花圖案 —

山仕事(2月、大平)

^{さしほり}
JR外房線の早朝は列車の本数が少ない。始発が5:29で次が6:01。東京駅7:42
発の熱海行きには少し早い。その次だと危い。

2月16日(水)。東京着が7:25。42分発まで17分間、寒いホームで待つのはたま
らない。そこで1本前の7:28発熱海行きにのり、原田、山崎さんには「熱海で待つ」
と連絡。

寒い日は富士山がふときは美しい。ぼくが東海道線で好きなのは、小田原の二つ
先「根布川(ねふがわ)」駅の付近だ。電車は海に面した岸の上を走る。実際、関東大震災
の時は汽車が海に転落したさうだ。

以前、一人で正士さんちに行っていた頃、途中下車して泳いだ駅が二つある。ふと
つが根布川で、細い道と下り鉄橋のところまで泳いだ。もう一つは静岡の二つ先の用宗
(もちむね)駅。海岸まで5分くらい歩くが、岸壁にジャワがついていてよめた。

熱海で二人と合流。静岡でのり継ぐ間に駅ビルで弁当を買う。この日は強飯の種を
袋型に握ったもの。ぼくは歯が4.0の本(近頃、さしに痕跡といふ)になった。いはいくせに、赤
飯が好きなのだ。ぼくは梅味イワシのフライ。天浜線の車中で食うとき、伊藤春江
さんは「エビフライ」と言ったが、中身はイワシだ。

敷地駅に着くと、正士さんと久米真弓さんが迎えてくれた。まずは、深澤明男・
富士代さんの「豊田農園」へ。ちょうど「はるみ」の売り始めの日とあって、馴染みの客が
切れぬなくやってくる。今回もおいしい「はるみ」をどっさりいただいた。ご馳走さま。

次に「豊田とれたて元気村」へ。焼きたてパンを店内に並べに来た吉川美千代さ
んから、特製の食パンをいただいた。4月恒例「お茶痛みパーティ」のときは、料理作りに協力し
てくれる人だ。働き者で「亭主がついた借金を返さなくちゃ」と、毎日、パンのほかに弁当や
惣菜まで作って「元気村」に出品している。最近ではキッチンカーを使って出前料理もする
いう。

今回の作業は、秋に刈った山野草をかき
集め、田んぼにはさまくこと。年間でも一番
の大仕事と言ってもよい。

生憎若林さんは竹細工の指導で参
加できず、英ちゃんも足の傷が治りま
らぬ無理はできない。いわば「大駒を/
枚半欠いたかこうだ」。そこで久米さん
に全面的に参加してもらうことになった。

ここで二手に別れる。久米さんと英ちゃん



ヨサの斜面で集草

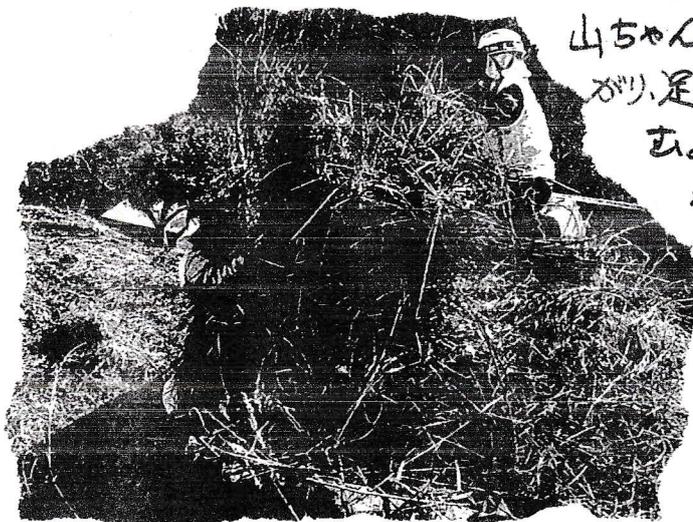
人には平坦な桶ヶ沢で集草を担当してもらう。正士さん、山ちゃんといづの3人は、丑さんちの裏の高台で集草し、家田(いづた)の田んぼに運ぶことになった。高台に登



るのが一苦勞。四輪駆動の軽トラックだが、勾配がきつくと、轍(わだち)が深い上、数日前

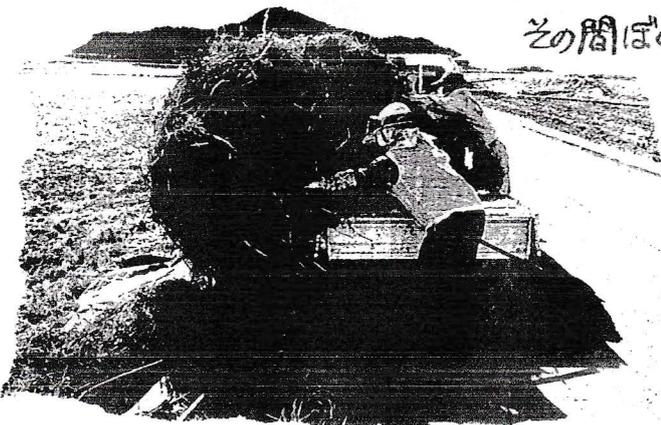
の雨でタイヤが滑るのだ。正士さんが運転する軽トラックを、山ちゃんと二人で押して登る。

レーキ(鉄製の熊手)でかき集めた枯草を軽トラックに積み込む。ただのせただけではいくとも積めない。



山ちゃんが荷台に上がり、足で草を踏みこむ。草の山が高くなると不安定になるが、うまくバランスをとって踏みこむ。山ちゃんの独壇場だ。

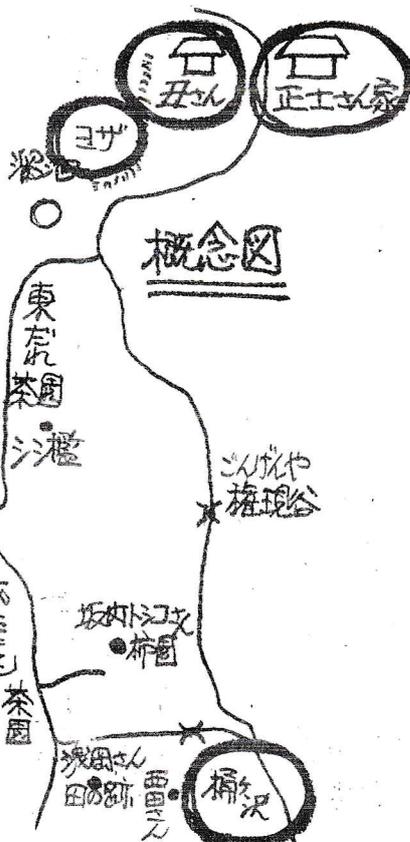
積み込みが終了しシートをかけ、田んぼへ運ぶ。田んぼに着くと荷台から田んぼへ落とす。



その間ばくは

残って草を集め、次の車に備える。このくり返しを夕方まで。

一方、康江さんは一人厨房で夕食の仕度にかかっている。



(夕食) 刺し身(アジ、タコ)、干しエビ
と白菜炒め、大根もち(大根とジャ
ガイをすりおろして作る)、シラス干しと
大根おろし、エシャレット、納豆入り
油揚げの巾着、アジのなめろう、ハンパ
ンの炭火焼き、子持ち高菜炒めに
正士さんの手打ちそばと久米さん
のだしとみそで。

それに、内田美智子さんからの
お饅頭。ごちそうさま



2月17日(木)。寒い一日は、珍しいラジヲ
体操から始まった。久米さんが号令をかけ
るが、ご覧のようにてんぞんばらばら。

とにかく寒かった。最高気温が4℃。高台には4℃未満の風がピューッと吹くと、知らぬ間に鼻水がチュルチュルと垂れてくる。小舟が近くなる。困ったことに加齢のせいでおぼろげがきかない。寒くて重ね着をして

いる上、手がかじみで門戸解放まで時間がかかる。指が物件に到達する前に、アレー
ーッ、たまらずチョロ、と放出が始まってしまう。だから、尿意を感じると即座に対応する。

(昼食) スパゲティ三種(バジルソース、トマトソース、タラコ)、サラダ(ブロッコリ、新玉ねぎ等)

ジャガイモのうす切りテス焼き。

昼食のさなか、はるはる水窪(みさくば)町から舟屋千づるさんが見えた。観音様のお祭り「西浦(にいわれ)田楽。18日予定」がコロナ禍で2年続きの中止となり、外部との接触を避けている中、「皆さんの顔が見たい」と来てくれたのだ。しかも、前回同様沢山のご馳走を携えて。その全容はこの後に続く



山崎 久米 康江 舟屋 ぼく 原田 正士さんのお便りと写真(一部)をご覧ください。

しげい 敬談。千づるさんには内田さんのお饅頭と深澤さんのシオンを食べてもらおう。千

づるさんは「人質」と容器の一部を残し帰られた。ご馳走さま。3月、待ってます。
午後も同じことのくり返し。

(夕食) 水窪のご馳走に
生サケのバター焼き(マッシュ
ルームとスタップエンドウ添付)、
夕アサイヒハムの炙り、ソーメ
ン南瓜の酢の物、風呂ふき
大根のとろろ昆布のせ、
夕この刺し身におそば。



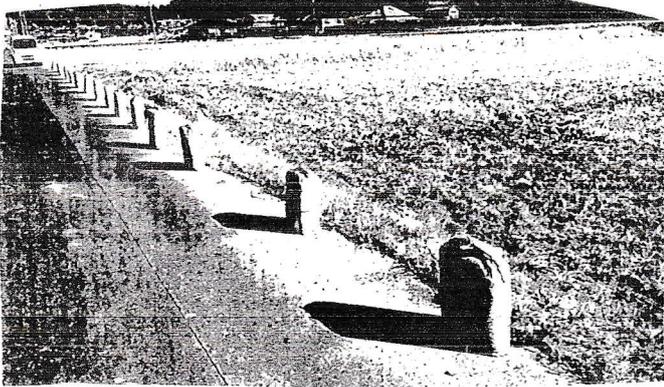
厨房で。

英ちゃんのケーナで歌が始まり、いつの間にか民謡に移行。

2月18日(金)、晴。いつものように朝6時になるのを待って母屋に行き、新聞を読む。
いつもはその頃お母さんも起き出してくるのだが、この日は仲々顔を出さない。夕時には
り心配になって正士さんに来てもらう。やがら起き出したお母さん、「寝過ぎしちゃった」。安心。

ここ2年ほど、ぼくを見るたびに「はあ、なもしできなくなっちゃった」と嘆くお母さん。そんな
ことはないですよ。耳は遠くなっただけ、ご飯を炊き、一人が食事を取り、風呂にも入る。まもなく
94歳だから立派ですよ。これまで人一倍の働き者だっただけに、今の自分が不甲斐ないのだらう。

この日は、5ヶ所あってまずは田んぼに米ぬかまき。正士さんの米作りは、農業は種子消毒
だけ。肥料も化学肥料は使わず、米ぬかと山野草の有機質だけ。



草まきの残りは3月に送り、けんちゃん以上水窪のご馳走をいたたき、帰宅。
この後、久米さんと竹中さんが続きをやってくれたそうです。(下の写真)

久米さんと竹中さん



竹中さんが引っ張り、久米さんがまいていく。

(次に、正士さんの古便りが)

2/16~2/18にかけて猫の手の活動ありがとうございました。

遅くなりましたが2月の山仕事の写真をお送りします。

今回2月は、猫の手の皆さんに刈っていただいた休耕田や荒れ地の刈り草を集め田圃に運び敷き均すという大変な仕事でした。

私の地域のお米は敷地米といって寿司米として知られています。昔から山草を田圃に鋤込み稲を育ててきたことにより美味しいお米になったのではとされています。

山草を刈り、集め、運び、敷き均すのは大変な仕事で現在ではほとんどやられていません。我が家位なものです。猫の手の皆さんのお陰でその大変な仕事をこなすことができます。ありがたいことです。

2/16は隣家の鈴木丑雄さんの裏の畑(10a)とそこに隣接している我が家の段々畑、通称ヨザ(7.5a)の刈り草の集草でした。

2/17は16日にやりおおせなかった丑雄さんの裏とヨザの集草、その集めた草を我が家の家田の田圃(30a)へ運搬、敷き均し、それと我が家の休耕田、通称桶ヶ沢(13a)の集草をやっていただきました。

最終日の2/18は家田の田圃へ米糠の散布、我が家では精米して出た米糠をすべて土壌還元しています。それと昨日運んでいただき家田の田圃の法面に集積した草の敷き均し、さらに昨日集草いただいた桶ヶ沢の草を家田の田圃へ運んでいただきました。

今回の作業は大変な作業で1月に怪我をされた原田さんも怪我を押して参加くださり、大きな仕事をしていただきました。ありがたいことです。今回は人数が少なかったこともあり草の処理が残ってしまい、皆さんの御配慮で3月にもう一回、臨時の作業日程を組んでいただきました。したがって3月には2回山仕事に来ていただくこととなります。とても1人ではやりおおせない仕事ですのでありがたく感激の極みです。

そして、今回も皆さんよりたくさんの差入を頂きました。

○ミカン農家の深澤明男さんより、はるみの跳ねだしをコンテナ1杯頂きました。農作業の合間の水分補給、本当に助かりました。

○内田美智子さんより、またまたおいしいお饅頭をお送りいただきました。私の大好物で毎回お送りいただき恐縮の極みです。

○水窪の守屋千づるさんより沢山の水窪料理を、まるでお正月が来たようなお料理でした。お重箱に入ったコンニャク・ニンジン・ゴボウ・大根・手作り豆腐・椎茸・昆布のお煮しめ(熊谷さん)、手作り豆腐(守屋・中谷さん)、おから炒り(熊谷さん)、飯田カブ菜の漬物(守屋さん)、コンニャクの油炒り(守屋さん)、それから私の好物のオハギ(あんこ・きな粉あん入り・きな粉)(守屋さん)をいっぱい、それに米麴の甘酒も(守屋さん)、豪華な水窪料理の数々、過分なご配慮恐縮の極みです。

皆さんの猫の手へのお気遣いに感謝です。

令和4年2月22日

鈴木厚正様

鈴木正士

追伸 令和4年2月22日

今回は仕事量が多く集草した草の運搬、敷き均しが残ってしまいましたが、次の日2/19の午前中、森町の久米真弓さんと竹中亮三郎さんが3月は雨が多いので田圃や草がぬれると大変だからといって助っ人に駆け付けてくださいました。

竹中さんのパワーはすごく久米さんも目一杯頑張ってください、残った仕事の半分以上が片付き、おかげで草もぬれずブルーシートも回収でき随分気持ちになりました。

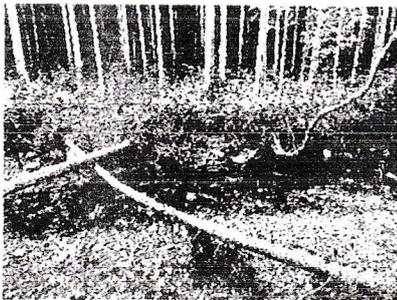
厚正さんをはじめ、猫の手の皆さんのパワーは本当にすごいです。みんな素晴らしい仲間でこのような皆さんと一緒させていただくことは、私にとって何よりの宝物です。別添写真のとおり

追伸の追伸 令和4年2月23日

我が家裏山の敷地川への倒木処理の件

次回の猫の手の山仕事は3/16~18ですが2/19に久米・竹中さんのお力で刈り草の運搬・敷き均しの残りが軽トラ2杯分くらいになり余裕ができました。余裕のできた時間については、かねてより予定していた我が家裏山の敷地川への倒木処理をお願いしようと思っていたのですが、その倒木処理について、静岡県袋井土木事務所の依頼で一昨日2/21から倒木処理の業者さんが入ってくださいし手際よく片付けてくださいました。

敷地川には、各所に倒木があり我が家の分は猫の手の皆さんのお力をお借りし自家処理の予定でしたがおかげで助かりました。袋井土木事務所に感謝です。



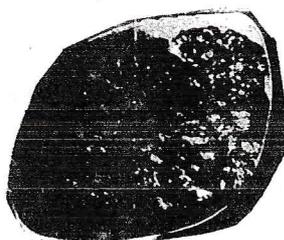
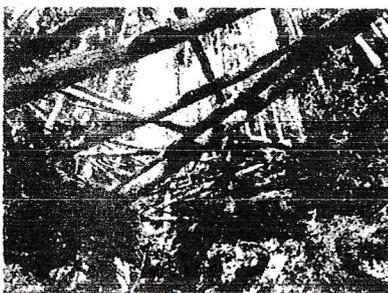
倒木の状況



処理後

そんな訳で、思わぬことに予定していた仕事が片付いてしまいました。

そこで厚正さんや猫の手の皆さんにお願いですが、以前3年前の台風で倒れた財産区との境界の通称タチバナツクリの倒木処理が途中になっており懸案となっています。そこで、3/16~18刈り草処理の余った時間、それに臨時で来ていただくことになっています。3/27~29について、懸案のタチバナツクリの倒木処理にお力をお借りできたらと思っています。虫の良い話ですがよろしくお願いします。



おからの炒り煮



おはぎ